

31H 土谷 尊斗 32H 高橋 愛果 33H 山屋 輝理
 35H 伊藤 柊太 35H 歌野 天飛 36H 四方 帆奈美

■課題

- ・金沢地域から能登地域をつなぐ交通手段の不足による観光客の低迷。
- ・各観光地をつなぐ交通機関の改善。

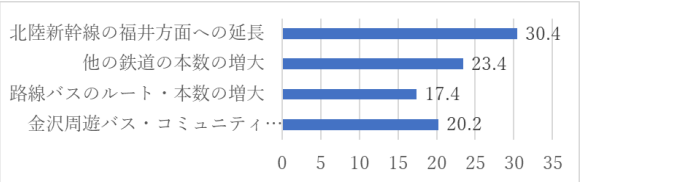
■解決策

- ・金沢駅と七尾駅を繋ぐ、特急列車を増やす。
- ・金沢から来る観光客を対象とした周遊バスの設置と新たな運行形態の路線バスを作る。

■現状1（課題の背景）

観光客の多くは金沢地域には訪れているものの能登地域に観光に来る人は少ない。

また、金沢地域には宿泊の観光客が多いが能登地域は宿泊する観光客は少ない。

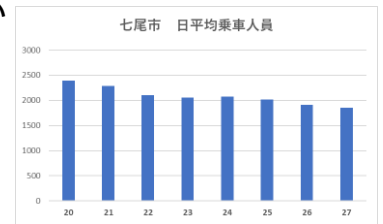
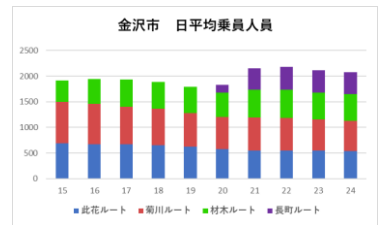


金沢地域から能登地域を結ぶ交通機関の不足と、宿泊することが困難であることから、能登地域への観光客数が低迷していると考えられる。

■現状2（課題の背景）

路線バスの乗車人員は減少傾向にある。また、年間の路線バスの利用者数は金沢市と比べると、約2250万人少ない。

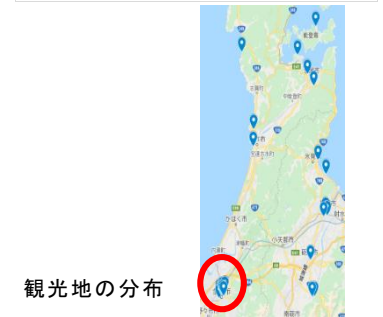
- ・路線バスなどの交通手段が充実していない
- ・観光地としてまわられる場所が遠い。金沢は密集している（図の赤丸）能登はまばらである（図の上部）



例（自動車移動）

兼六園→ひがし茶屋街 6分 (2km)
 千枚田→和倉温泉 70分 (61.5km)

↓
観光客が効率的に観光地を回れない



■具体的内容

<現状1の解決案>

- ・金沢駅から、七尾駅を繋ぐ特急列車を増やす。
- ・宿泊施設を充実させる。特に、民泊での田舎体験や輪島塗等の伝統工芸体験等の能登地域特有の体験をできる施設を増加させる。

<現状2の解決案>

- ・観光地同士の距離が離れていること、市街地に集中していること、冬場の観光が盛んなことなどの共通点がある「ひがし北海道周遊バス」を参考にして、金沢からの東回り西回りルートでの観光周遊バスを作る
- ・各観光地が遠いため、加賀市で運行されているCANBUS（加賀温泉郷の見どころを巡回運行する周遊バス）を参考にした配線を設置し、移動を効率化する。
- ・新たな運行形態の路線バスを設置する。

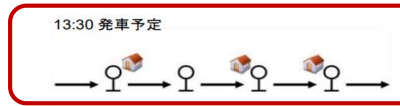


ひがし北海道周遊バス ルート

(例1) 所定のバス停で乗降するが、バス停から遠い地域に迂回ルートを設定して、予約があった場合にのみ乗り入れを行う運行形態



(例2) 決められたルートを走行して、所定のバス停で乗降するが、事前に予約があった区間のみ運行を行う路線不定期運行のバス



CANBUS ルート

■効果

<現状1の解決案による効果>

- ・移動時間が短くなることで、能登地域に訪れる負担が小さくなりより多くの観光客が訪れるようになる。
- ・宿泊する観光客が増えれば、観光時間が確保されより多くの観光地を回ることができる。

<現状2の解決案による効果>

- ・観光客の移動手段が確保され、効率的な観光を行えるようになる。
- ・新たな運行形態の路線バスを設置すれば、観光客だけでなく地域住民の移動手段の確保にもつながる。